



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
大 水 文 隆
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇さまの意向

- ・一般 「子ども兵士」がこの世界からなくなりますように
- ・宣教 欧州の人々が福音の価値を再発見できますように
- ・日本 降誕祭の祝い福音を伝える場となりますように

大浦天主堂の小バジリカ認定感謝ミサ

高見大司教、認定の意義語る

信仰の涵養、宣教、教皇との絆



認定書を示すチェノットウ大司教

主司式を務め、駐日教皇大使ジョセフ・チェノットウ大司教とバリエ外国宣教会日本管区長アントワン・デ・モンジュロ神父も参加。司祭、修道者、信徒ら合わせて約200人が共に祈った。

日本二十六聖人を保護者とする大浦天主堂が日本で初めて、教皇庁典礼秘跡省により、今年4月26日付で「小バジリカ(Basilica Minor)」として認定された(本紙2016年8月号既報)。この小バジリカの称号付与を祝い、長崎大司教区は、プティジャン司教叙階150周年の記念日にあたる10月21日(金)午後7時からミサをささげた。高見大司教が

よってラテン語で読み上げられ、続いてその日本語訳を川原昭如神父(教区書記官)が朗読した。「ヨセフ高見三明長崎大司教様が2016年2月20日付け書簡をもって聖職者と信者の懇願と要望を熱心に表明されましたので、典礼秘跡省は、フランススコ教皇から付与された固有の権能によって、長崎の準司教座教会、すなわち聖パウロ三木

と同志殉教者をたたえて神に献げられた大浦天主堂に、小バジリカの称号と品位を、そのすべての権利およびふさわしく儀式を行う典礼上の権限の委譲とともに喜んで授与します。」

また説教では、高見大司教が今回の認定に至る経緯を説明し、大浦天主堂が、迫害・潜伏から「信徒発見」を経て信仰の自由へと、時代の転換点となった場所であることにも触れた。さらに、小バジリカになった同天主堂の宣教に果たす役割に言及しながら、そこに集まって祈る人々が、「よりいっそう、信仰のよりどころとなる、信仰の歴史を思い起こし、信仰を養ってもらおう、そういう場所にしていかなければなりません」と述べた。ミサの最後には、小バジリカのもう一つの大きな意味を「教皇との絆を表すこと」と話し、教皇のための祈りと呼び掛け、閉祭した。



10月30日(日)、牢屋の窄殉教祭(浜脇小教区)

歴史と信仰を次代へ

久賀島・牢屋の窄殉教祭

10月21日(金)大浦天主堂の小バジリカ認定感謝ミサに参加した駐日教皇大使ジョセフ・チェノットウ大司教は翌22日(土)から23日(日)にかけて、高見三明大司教の案内で五島を司牧訪問した。鯛ノ浦港に到着した大使は、始めに鯛之浦教会へ移動。新上五島町の協力を得ながら、頭ヶ島、昼食をはさんで仲知、青砂ヶ浦、中ノ浦と福江教会でのミサ



は、大使が日本語で司式されました。そして、「皆さんは決して孤立してはいない。皆さんは世界の一部です。今日、世界宣教の日です。このように、日々にこの地を訪れることができて大変うれしい」とおっしゃいました。公式の司牧訪問をお願いし、応えてくださった大使に感謝申し上げたいと思います」と語った。

長崎教会管区司祭集会に参加した。同窓会さんなどに、二十数年ぶりに会う先輩方の近況を聞きながら、部分的に貫禄がついた互いの姿をからかい合う。旧交を温め、多くの人と語り合うことのできたこの集会は、テーマのひとつである「交流」のきっかけともなった。異なった場所それぞれ喜びと悩みを抱えながら、同じ目的のために奮闘する同僚との分かち合いは、大きな刺激になる。一方で交流は、一致と相違を明確にすることで、ある。今回の主テーマ「教区再編」についての分かち合いでは、各教区に共通する問題と地域性による違いが明らかに。諸問題をあぶり出して議論し、将来に向けて何らかの見通しを立てるために、司教団によって投げ掛けられたこのテーマが、1987年のNICE・1です。提唱され、99年の西日本司祭大会で再度提唱されたことからも分かるように、「時間と知恵と忍耐を要する」難問である(高見三明大司教)。ちなみに、長崎教区がシノドスの提言として取り組んでいる小共同体づくりも、NICE・1で提案されている▲司祭・修道者・信徒の減少と高齢化、財政基盤の貧弱……。暗く、笑顔を語る外国人司祭に思わずホッとさせられた。「信者が少ないということは、福音を伝える相手がたくさんいるということでしょう。これは希望ですよ。」(F・O)

「教区再編」テーマに

長崎管区司祭集会、3年後にも

10月25日(火)から27日(木)まで、長崎教会管区司祭集会が福岡市内のホテルで行われた。1999年に開催された西日本司祭大会以来の管区レベルの集会には、九州・沖縄の5教区(長崎・福岡・大分・鹿児島・那覇)の司教と司祭、総勢132人が集い、教区再編をテーマに話し合った。初日は各教区の「宣教・司牧事情と課題」が報告



され、15班に分かれて分団会が行われた。2日目は教区再編について5人の司教によるパネルディスカッション、これを受けて「教区再編」教区間の司祭交流、「管区レベルで必要と思われる事柄」についての分団会、全体発表へと続き、最終日の全体会議と感謝のミサで集会を終えた。



29年前に開催された第1回福音宣教推進全国会議(NICE・1)の折、教区を越えた人材の活用や交流・財政的協力・16教区制度の再検討が提案されたが、管区司教団は今回の集会を招集するにあたり、より踏み込んだ議論と意見を求めた。司

祭団からは教区再編における、そのための再編はあり得ない。宣教・司牧に対する教会の在り方を議論してほしい」との意見もあった。また、地域性にも配慮する必要がある。沖縄県では約144万の人口のうち信徒は約6千人。押川壽夫司教(那覇)は沖縄の文化と痛みの歴史に触れながら、「うちには司牧司祭はいらない。宣教司祭がほしい」と述べ、「信者のためのだけの教会ではなく、その地域のための教会であること」の重要性を強調した。浜口

末男司教(大分)は「管区」とは新しい視点」と語ったが、この新しい視点は今集会の意義であり、これからの課題でもある。全体会議では次の3点が確認された。①管区レベルの集会を3年後に開催する。②災害に素早く対応できる管区機関の設立を、東日本大震災担当で推し進める。③平和の問題に関しては司教団で話し合い、事務局レベルで調整していく。

教区本部 中濱敬司

仲間と手をつないで

上五島と佐世保でウルトレヤ

長崎教区でのクルシリヨ50周年を記念し、各地区でウルトレヤが開催されている。上五島地区では10月10日(月)青方教会に97人、佐世保地区では11月3日(木)佐々教区に166人が集い(写真、50周年の喜びのうちに、共同体における各自の役割を再確認した。両地区では、前指導司祭の三村誠一師(大山主任)の講話、分かち合い、3人のクルシリストが信仰生活や小教区での取り組みなどを語る「第4

の日」の発表が行われた。指導司祭の中村倫明師(三浦町主任)は黙想で、「共に過ごしたあの日を思い出して、一人ではなく、司祭、修道者、小教区の仲間たちと手をつないで進んでいこう」と話した。参加者たちは全員で手をつなぎ、新たな決意で「最善を尽くします」と宣言した。



佐々教会でのミサを司式した高見三明大司教は、「クルシリヨで自分の信仰に気づき、神との深い関係を取り戻せたことを思い起こしてください。これからクルシリ

スタとしての自覚の中で、共同体とのつながりを持って霊的に成長してほしい」と説教した。平戸地区では11月23日(水)田平教会、長崎3地区では来年1月9日(月)浦上教会において開催される予定。



高山右近列福へのカテケージス④ ユスト高山右近という生き方 ―行って、あなたも同じように―

列聖推進委員会 古巣 馨

◆風に吹かれて

どれほどの耳を
一人で持たなくてはいけないのか
人々の嘆きを聞くために
どれだけ死んだら人は
それを無意味なことだと知るのか
でもあまりにも多くの人が死にました
答えは友よ
ただ風に吹かれているだけ
だれにも分からない

今年のノーベル文学賞は、「まるで小さな子が窓に立つて雨ふりをじっと見つめているような声」(村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』)で歌うボブ・ディランに贈られました。1962年、核戦争が現実味を帯びたキューバ危機、「この先、もうあまり長くないかもしれない」という切迫感の中で「風に吹かれて」の詩は書かれたといえます。反戦や反権力への月並みな思想ではなく、ずっと繰り返されてきた人の世の不条理や理不尽さから絞り出された、しわがれ声の今も続く切ない問いかけです。「答えは友よ ただ風に吹かれているだけ」「丸投げとも思えるこの結びの句を、あなたはどうか解しますか」。

死にかけていた眼に光が差すのを見ました。うらぶれて 涙の袖にかかるとき 人の心の奥ぞ知らるる(古の人の詩)。東日本で、熊本で、ぐっしやりとしやがみ込んだ人たちが、差し出された一個のおにぎり、一杯の味噌汁を受け取るうるんだ瞳が、あの「風」の神秘をそっと教えてくれます。ご自分の息(プネウマ)を送って人を創造された神が、ノアの洪水の後、地の上に風(プネウマ)を吹かせて被造物を再び生きるものとされたように、命の風がなえた心に触れたとき、死に向かう人は命の方角に向きを変えるのです(詩編104・29・30、創世記8・1、エゼキエル37・5参照)。

日本の初期キリシタン時代、誕生して間もない教会が伝えたイエスの福音は、戦国の世に小さな光を灯しました。そのただ中に、命の風の担い手となったユスト高山右近がいました。

◆生きる者たちの絆

1587年7月24日、伴天連追放令を発布する直前、秀吉は使者を介してその苛立ちを伝えます。「わが国で大名や身分ある武将たちの間にキリシタンの教えが広まっているが、余は右近が彼らを説得して広めていることを知っている。余はそのことを不愉快に思っている。なぜなら、キリシタンどもの間には、血をかけた兄弟以上に固い団結が見られ、天下に影響をおよぼすことが懸念される。……よって、今後も大名の身分にとどまりなければ、今すぐキリシタンであることを捨てよ」(『日本史』第2部98章)。血を分けた兄弟以上に固い絆で結ばれたキリスト信者たちは、秀吉にとつて不安と悩みの種になっていました。

しるぎを削り上り詰めた権力者に群がる人たちが、命の風になでられて、空の手で何のしからも集まらなかった人たちの迫力の違いを、秀吉はだれよりも知っていたはずですが、風に吹かれた自由人の大旦那が高山右近だったのです。「右近にとつてキリストへの信仰のために、領地を失うことはたいしたことではなかったように見えます。それよりももっと驚くことは、……いのちまでもささげながら、それでも確かな希望をもって生きているのです」(1589年2月24日付、準管区長ガスバル・コエリヨ書簡)。

身分も領地も捨てて、競い合う世界から降りて行った先どんな景色が広がっているのか、右近はすでに知っていました。それは、かつて死の淵をさまよったとき、吹き抜けた命の風が右近を生きた者としたからでした。

◆虫の目とイエスの福音

ザビエルから最初の10年、日本の教会は6千人の信者と9つの教会堂だけという遅々とした歩みでした。何をしていたのでしょうか。ザビエルの時代、日本は戦乱に明け暮れていました。安定しない社会は庶民の暮らしを奪い、飢饉が頻発します。そんなとき、真っ先に犠牲になるのは、子ども、老人、女性など、戦で頭数に入らない人たちです。貧困から来る墮胎、赤子を窒息死させる間引き、捨て子……。教会は口先の宣教ではなく、地べたを這いま

わる「虫の目」で、死にかけた眼と向き合ったのです。

「この国民の間に行われている悪事の中に、子どもを育てる辛労、また貧困のために出産直後に赤子を殺す習慣があります。本年、ルイス・デ・アルメイダというポルトガル人が府内(大分)に来て、われわれの修道院に引きこもり、イエズス会士になるための修練を受けているのですが、この国の惨状を見て心を動かした千クルサドを投げ出し、育児院を造りたいと太守大友宗麟殿に言上しました。何人も赤子を殺してな

てくるよう命令書を出してくれと請願したので、大友殿は快く賛同してくれました」(1555年、バルタザル・ガーゴの書簡)

1557年、アルメイダは育児院とハンセン病の療養所に続いて、府内に総合病院を創設しています。これを支援したのが「ミゼリコルディアの組」と呼ばれた信者たちによる慈善の信心会でした。当時の信者の数からも分かるますが、教会の慈善は、決して人の弱みにつけ込んだ洗礼と引き替えの教化手段ではありませんでした。コスメ・デ・トルレスは、「癒された人が、本心からキリストの教えを学びたいと再び戻って来たときにだけ洗礼志願者としなさい」(『イエズス会日本通信』)と、宣教師たちにくぎを刺しています。「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい」(ルカ6・36)。右近が受けた福音とは、人間の打算とは無縁の、死にかけた眼に光を灯す命の風でした。

◆「命の風」の担い手として

ダリオ高山飛驒守とその子ユスト右近にとつて、キリストの福音を受け入れることは、高邁な思想や理念を極めることではなく、本心ではだれもが望んでいる腑に落ちる振る舞いを単純に生きたことでした。

ある戦いで60人余りの兵士が亡くなりました。当時の習慣では、亡くなった兵士の遺族の面倒を見る領主など、ほとんどいませんでした。しかし、ダリオと右近は、まるで自分の兄弟の死を悲しむように共に泣き、孤児には父と同じ縁を与え、未亡人が再婚を望むと仲人となり、独り身で暮らす女性には生活保護を与えていったのです。

またあるとき、領内で二人の貧しいキリシタンがひっそりと亡くなりました。当時、貧困者や無縁者が亡くなったとき、「聖と呼ばれた人たち」が呼

び出され、彼らに火葬させていました。しかし、ダリオと右近は高価な布をかけた棺車を作らせ、武士や町人の区別なくキリシタンを集め、丁寧に葬儀を執り行い、送り出したのです。領民たちは一国の領主が、まるで身内のように涙ぐみながら無縁者の棺に寄り添って歩くのを初めて見ました。それまでの日本のしきたりを壊すような高山父子の振る舞いは、近隣の権力者たちには革命的であり、脅威となりました。新しい命の風は、各地に誕生した教会によって日本中に広がっていきました。

1591年、『どちらなりしたん』という日本で最初の国字本の教理書が出版されました。その第7章では神の十戒が説かれ、最後に「右この十か条は、ただ二か条に極まる也。一つには、ただ、一體のデウス(神)を万事に越えて、ご大切に敬い奉るべし。二は我が身のごとくポロシモ(隣人)を思ふと云事なり」と結ばれています。当時ラテン語のカリタスは、愛や愛徳とは訳されず、「ご大切」という日本語が当てられました。キリスト者とは、何をさておき、まず神を大切にすること。神を大切にすることは、隣人を自分のことのように思う人のこと。ここまではまだ理屈です。隣人を自分のことのように思う人の生き方を、第12章では「慈悲の所作」と題して、具体的に示しています。

「色身にあたる七つの事。一つには、飢ゑたる者に食を与ゆる事。二つには、渴したる者に物を飲ます事。三つには、膚を隠しかぬる者に衣るいを与ゆる事。四つには、病人を労わり見舞ふ事。五つには、行脚の者に宿を貸す事。六つには、囚はれの人の身を請くる事。七つには、死骸を納むる事、これなり。」命の風を吹き込む

7つの所作のことです。

「だれがこの人の隣人になったと思うか」「その人を助けた人です」「行って、あなたも同じようにしなさい」(ルカ10・25・37)。ダリオと右近は福音を難しい教えではなく、イエスが言われたことを単純にそして愚直に行うことだと受け止めたのです。それ以外の難解なことは、後でみんな人間が都合よく付け足した理屈に思えたのです。だから、高山父子にとつてキリスト者とは、「慈悲の所作」をそのまま行う人のこと、それは、死にかけた眼に光を灯す「命の風」の担い手になることでした。家康からの追放の沙汰を受け、長崎に半年間逗留した右近は、病身を押し、長崎のミゼリコルディアの活動を続けています。そして、追放地マニラでそのつとめを終えたとき、亡骸は当地のミゼリコルディアの会員たちによって担がれ、埋葬されています。

「善いサマリヤ人の霊性」をもとに開かれた第2バチカン公会議は、新しい命の風を起こしました。マザー・テレサはその風の担い手になりました。あれから50年、もう一度命の風を吹き込むために、教皇フランシスコはいつくしみの年の角笛(ヨベル)を吹きました。

「私ははつきりと見ます。教会が今日最も必要とすることは、傷を癒す能力です。信する人たちの心を温める力です。身近さと親しさです。教会は戦後後方の野戦病院だと思えます。『中略』傷を癒す、傷を癒す……、低い下から始めるべきなのです」(2013年、教皇フランシスコへのインタビュー)。長崎の教会に命の風は吹いていますか。まず、死にかけた私が生きる者にならないければ、命の風(プネウマ)の担い手にはなれません。

神学院生活は恵みの時

聖ルドヴィコ神学院創立60周年



11月5日(土)に記念ミサは、高見三明大司教主司式のもと20人余の司祭の共同司式でさげられ、長崎教区内のすべての小神学生とシスター志願者、修道女、長崎南山学園関係者、神言会会員ら約180人が参列し、この恵みに感謝をささげた(上写真)。大司教は説教の中で、小神学生と志願者たちに、「召された道を歩み通すように」と励ましの言葉を掛けられた。



設置された聖母像の除幕が在籍しているルドヴィコ神学生3人によって行われ、永山誠管区長により祝別された(左写真)。聖ルドヴィコ神学院は、長崎南山学園創立から4年後に開設され、現在までに叙階された会員は33人であるが、日本管区を支える重要な任務を果たしている。志半ばで他の道に進んだ元神学生たちも、「神学院での生活は、大きな恵みの時だったことを心に留めて生きていこう」と、『ルドヴィコ万年青』を作っているが、その中の約40人のメンバーが遠近から祝いに駆け付け、互いに親交を温めていた。この祝い、教区・修道会の枠を越えて召命に対する意識を高める一助となり、その促進につながることを願っている。



主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二

長崎市辻町7-18

TEL(095)844-4011

24時間営業

FAX(095)843-9896

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子

(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号

長崎 095-822-8436

FAX 095-822-8488

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲

なが さき せき ちよう
長崎石彫

ヨゼフ 岩永 博明

☎(095)862-2469

長崎市梁川町6-17 岩永ビル

神学院祭2016

院長で今年9月
に広島司教として叙階された白浜満



司教が主司式を務めた。中学2年から小神学校に編入した白浜司教は、司祭を目指す動機となった中学1年時の郷里での体験を語り、参加者たちは神が用意される召命を深く考えることができた。

ミサ後はいくつかのプログラムが用意されていて、大神学生による神学院案内ツアーや子どもたちのホスチア作り、展示企画、劇(写真)、大人のための午後から片柳弘史師(イエズス会)による、マザー・テレサとの出会いと自身の召命について講演が行われた。

日本カトリック神学院福岡キャンパスで11月3日(木)文化の日に開催されている「召命の集い」が、模様替えて2年ぶりに「神学院祭」として実施された。今年のテーマは「地の塩、世の光」。

参加者は700人を超え、主に福岡教区の参加者が占める中、長崎教区からも、浦上、神ノ島、田平各小教区の司祭と子どもたちの姿があった。

開会後すぐに始まった野外ミサでは、前神学院

大槌ベースボランティア募集

●1月12日(木)18日(水) (12/14締切)
●2月9日(木)15日(水) (1/11締切)
●3月9日(木)15日(水) (2/8締切)
申し込みは所属小教区へ。問い合わせは教区本部事務局(松尾)まで。

TEL 095・842・4450
FAX 095・842・4460

先人の思いを黙想

水ノ浦小教区が徒歩巡礼

水ノ浦小教区(主任 島瀬文武師)は10月2日(日)、楠原教会から楠原半跡、城岳の山道を通って水ノ浦教会までの道のりを約1時間かけて徒



の歩いた道をたどった。途中、楠原半跡では1868年に起こった五島崩れに関する説明を聞き、参加者は先人たちの思いを黙想。水ノ浦教会に到着後は、女性部とシスターたちが準備したお茶とお菓子に舌鼓を打ちながら交流を深め、「神のいつくしみ」をいろいろな形でいただく一日を過ごした。

同小教区は昨年10月も、日本の信徒発見150周年を記念して徒歩巡礼を実施。今後も続けていきたいとしている。

家庭で宗教が異なるとき

南地区、シノドス提言の実践へ

10月30日(日)午後1時からカトリックセンターで、南地区家庭委員会主催による「共に生きる学び——家庭で宗教が異なるとき」が開催され、教区エキュメニズム・諸宗教委員会委員長の橋本勲師(写真)が講師を務めた。この日、長崎市内

信仰を育てる食事を

佐々教会で「食の文化講演」

10月23日(日)佐々教会において、東京教区の地区家庭委員会主催の講演会が開かれました。「食の力」が演題で、2000人を超える信者が熱心に聞き入りました。

伊藤幸史神父様(写真)をお迎えし、佐々保地区家庭委員会主催の講演会が開かれました。「食の力」が演題で、2000人を超える信者が熱心に聞き入りました。

「食事は単にカロリーや栄養を補うのではありません。『あなたが大切』という愛情も食べる。手作りの料理は無意識のうちに心を満たしていく。カトリックはパンとぶどう酒という食べ物をご聖体とし、また『最後の晩餐』という食事の再現であるミサを信仰の中心として」と、ビデオなどを使って分かりやすく語られました。お父さんが食肉センターで働く家族の紙芝居では、命をい

いたことのありがたさと感謝の気持ちで胸が熱くなり、涙ぐんでいました。

便利で物が豊かな今日ですが、食事の準備に時間が取れず、外食や出来合いの物で済ませてしまいう時も確かにあります。食事は、空腹を満たすだけではなく心にも栄養を与える時でもあります。工夫を凝らした食事、信仰も育てていけるように心掛けたいものです。

浅子教会 相川照美

お知らせ

〈管区長の任命〉

●神言修道会の新管区長に西町小教区主任のジェブラ・エウゲニウス神父が任命された。着任は2017年1月1日。

●第17回枯松神社祭 11月3日(木)午後1時から長崎市中黒崎町にある枯松神社で、枯松神社祭実行委員会主催によるミサと講演が行われた。

短 信

〈堅信式〉

●謙早教会では10月16日(日)9時から小中学生11、大人1の計12人が堅信の秘跡を受けた。

〈外国人信徒の交流会〉

10月22、23日の2日間、長崎県民の森で県内の外国人信徒の交流会が行われた。佐世保、長崎・諫早地区から計40人が集まり、1泊2日のキャンプで親睦を図った。

〈第20回召命祈願ミサ〉

司祭・修道者を志す神学生と志願生のためのミサが10月30日(日)11時相浦教会で葛嶋秀信師主司式のもと行われた。各



に提言5「異結婚とその家庭への支援と配慮」にも取り組んでいることなどが説明された。今回のテーマは信徒からの要望を受けたものであり、事前に質問や疑問を集めて、①結婚 ②生活の場 ③葬儀 ④墓・納骨 ⑤法要など5項目27質問について、『カトリック教会の諸宗教対話の手引き』を参照しながら、Q&A方式で行われた。

質問には「分骨、散骨は可能か」「納骨せず自宅に置いていいか」「お寺経営の保育園に通っているカトリックの孫が、祈りを覚えてきた。どのように接すればいいか」などがあり、信仰を生活の中で生きている具体的な学びとなった。アンケートには、今後も継続を希望する意見が多数あった。

第1回の演題は「自由」

山内清海師の連続講演会

連続講演会「現代社会の間に生きる」

10月30日(日)、長崎市立図書館多目的ホール(興善町)において、「山内清海神父連続講演会」の第1回が開催された(写真)。

主催するミカエル会は、山内師の講演会のために結成された有志の団体である。120席あるホールはほぼ満席。静かな熱気の中、聴衆は深い感銘を受けていた。



救世軍福岡小隊(教会) 繁田泰治

「自由」とは、カトリシズムの視点から現代社会が抱える問題を読み解き、正しい生き方を模索しようという試みである。第1回の演題は「自由」。現代社会には、いまだに自由が与えられていない社会や国々がある一方、絶対的自由を強調する人々もあり、人々はこの自由思想の間で、迷い苦悩して

いる。この自由について、その意味を明確化することが目的である。講演は、過去・現在に



第2回の演題は「教育」。来年1月8日(日)14時30分から16時、長崎市立図書館多目的ホールで開催される。

教会一致のための草の根エキュメニカル運動 30回を迎えた長崎大村朝祷会

10月19日(水)、「長崎大村朝祷会」30回記念祈禱会を開催しました(写真)。長崎大村朝祷会は2014年5月21日、バプテスト大村古賀島教会を会場に発足しました。毎月第3水曜日から第1部祈禱会、第2部交わりと、食事会の折には地域にある教会の特別集会・催しなどの案内があり、他教会に足を運ぶ機会となり、交流の恵みが増えています。

朝祷会は今から58年前の1957年、大阪で始まり、11年後の68年、仙台で行われた全国大会にカトリックの司祭・信徒が初めて出席され、翌年の東京全国大会でカトリック信徒がメッセージを担当し、教派間の交わりが深ま

りました。この朝祷運動は「教会一致のための草の根エキュメニカル運動」となり、希望の灯を世界に輝かせています。現在全国230カ所に朝祷会があり、先輩友方の祈りと神の導きにより、大村朝祷会に続いて2015年4月に「佐世保朝祷会」、15年11月「長崎朝祷会」が発足し、県内3カ所で、教会の一致・キリストの平和・若者の救い・自然災害被災地復興支援の4項目を主な祈禱題目としています。

朝祷会の綱領は、①イエスキリストを信じるすべての人々に開かれた超教派祈りの運動である ②共にキリストの愛に生かされている者たちの一致を求め、福

音の前進と、主にある平和を祈る ③み言葉に聞き、賛美を捧げ、心を合わせて祈り、食事を共にして交わりを深めることです。

30回記念祈禱会には、山下全国連合会長はじめ、熊本から歌野全国副会長ご夫妻・佐世保朝祷会・長崎朝祷会の祷友もご参加くださいました。3人の祷友メン

バーによる力強いゴスペル賛美の後、和やかな朝食と懇談の時間が持たれ、続いて各教会からの特別集会の案内・連絡事項があり、終わりにカトリック植松教会の紙崎新一神父より、10時から植松教会2階における「聖ヨハネ二十三

世平和の教皇」のビデオ上映会の案内があり、終了後、11人の方が参加鑑賞されていた。カトリックの歴史を学ぶとともに朝祷会発展の側面を知ることができ、感謝でした。大村朝祷会では月1回ですが、さらに祈りの輪が広がります。36人参加

存する、さまざまな「自由」についての考え」を鳥瞰することから始められ、次いで「人間は本質的に自由であるが、その自由は無制限ではない」ことが詳細に論じられた。結論として最終的に提示されたものは、第2バチカン公会議『現代世界憲章』17項である。

地区女性の球技大会

司祭チームと交流試合も



交い、体育館は子どもたちや信徒の歓声に沸き立っていた。

最後に司祭チームと女性の会選抜チームとの試合があり、「日頃見るのとは違う、いい試合だった」と好評。交流試合で締めくくられた。閉会式では、上位各チームの表彰と、ハッスル賞・地区長賞・個人賞などが授与された。

優勝 香焼 2位 馬込 3位 大山

(長崎南地区女性の会)

親睦と交流を目的に毎年開催され、今年は6回目。回を重ねるごとに、選手だけでなく小教区・地区での盛り上がりを見ている。コート外からは応援に駆け付けた家族の叱咤激励の声が飛び交っていた。

親睦と交流を目的に毎年開催され、今年は6回目。回を重ねるごとに、選手だけでなく小教区・地区での盛り上がりを見ている。コート外からは応援に駆け付けた家族の叱咤激励の声が飛び交っていた。



親睦と交流を目的に毎年開催され、今年は6回目。回を重ねるごとに、選手だけでなく小教区・地区での盛り上がりを見ている。コート外からは応援に駆け付けた家族の叱咤激励の声が飛び交っていた。

親睦と交流を目的に毎年開催され、今年は6回目。回を重ねるごとに、選手だけでなく小教区・地区での盛り上がりを見ている。コート外からは応援に駆け付けた家族の叱咤激励の声が飛び交っていた。

右の手のすることを左の手に知らせてはならない。

(タイ6・3)

しなければならぬことをしただけです。(ルカ17・10)

か?」と質問したことだけ。神父様と一緒にいる時間はとても心が安らいだ。建築費調達のため親戚を回り、ついたあだ名が「高等レンペン」(現

高校2年の秋、所属教会は初めての献堂式を迎えた。教会報に原稿を頼まれた私は、長年修道院の聖堂と幼稚園を提供し、当然のように教会活動に協力して下さった

その3年後、神父様は帰天。東京に異動したばかりの私は葬儀ミサの間中、涙腺のふたが取れたように父の時にも出なかった涙が止まらなくなった。実家近くの修道院のシスターとも何十年かぶりに再会し、入会以来ほとんど会うことがなかった神父様の最晩年に2回も居合わせる

「私はしなければならぬことをしただけです。」「成聖への道は生きることで見つけるのです。」天国の神父様に語りかけた時、そう言われた気がした。

みことばにふれて 133 柳川眞貴子シスター (純心聖母会)



高校生の時、教会建築に本腰を入れるため主任神父様は私の家から5、6分のところに小さな家を借りた。近場だったためか、夏休みに要理の勉強にお弁当持参で神父様のところに通った。覚えてい

在は差別用語。物静かだが、こうと決めたら絶対やりとげる。神父様の人柄から、清貧、純粹、神への誠実さといった聖なるものを私は感じていた。

「一番感動したのは、告解」でした。心の中にたまりたまったものを自分で整理して告白し、それに対して神父様がゆるしを与えてくださる。心が解きほぐされる経験をした時、洗礼を受けて良かったと思えました」

多くの人の支えと導きによって、2013年3月16日に受洗。洗礼名の「マリア」は、長年にわたって大塚さんを見守っていた方(故人)からいただいた。

かつて長崎市内の百貨

た長崎巡礼センターで今年9月まで勤めた。巡礼の仕事を通して、長年会えなかった叔母のシスターとの再会もあった。現在在求めにに応じて、長崎巡礼のガイドを手伝っている。

信仰の歴史、人の生きざま伝えたい 巡礼ガイド 犬塚明子さん



「ザビエルがキリスト教を伝えて450年以上。信仰の歴史を背負った人たちが建てた教会のことを、私たちは伝えていかなければならない。信仰の歴史とは、人の生きざま。それを知る手立

方の祖父は佐賀教会の山口宅助神父(浦上出身)から教えを受け、受洗。」「幼児洗礼だった父が信者でない母と結婚し、私にとって教会は遠からず近からずの距離感でした。その私が洗礼を受け、巡礼ガイドとして信仰の歴史を伝える。これから先どれくらいお手伝いさせてもらえるか分かりませんが、伝えていきたい」

「気さくで明るい笑い声が印象的。信徒となつてまだ3歳。生活の中に祈りが溶け込むようになる」といいます。

所属する湯江教会の信徒とみことばの分かち合いに参加している。60歳。

新刊良書

★高山右近の生涯——日本初期キリスト教史——日

監修 溝部脩 現代語訳 溝部脩 現代語訳

溝部脩司が30余年かけて完成させた右近の列聖申請書の底本となつたのが、上智大学教授イエズス会士ヨハネス・ラウレス師の「高山右近の生涯——日本初期キリスト教史」。やなぎやけいこ氏によって、読みやすい現代語訳版が完成した。(列聖推進委員会委員長 大塚喜直司教のことばから抜粋) 聖母の騎士社、税別1000円。

★どうぶつたちのクリスマス イブ 文ペニー・マシューズ 絵 スティーブン・マイケル・キング 訳 堀口順子

動物たちはイエスさまが生まれたお祝いに、特別な贈り物をした。クリ

★今こそ原発の廃止を——日本のカトリック教会の問いかけ——編 日本カトリック司教協議会「今こそ原発の廃止を」編集委員会

★東日本震災から8カ月後の2011年11月に司教団が発表した脱原発のメッセージを補完して、科学的・哲学的・神学的な裏づけをなす。カトリック中央協議会、税別1800円。

★感謝

★寄付

★長崎カトリック神学院

●桑村和利様(水ノ浦) 右の方からご寄付を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

講師 山内清海(神学博士・哲学修士)

現代社会の間に生きる——教育——

山内清海神父連続講演会(第2回)

主の平安

株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館 五島留会館

代表取締役 ヨゼフ 浦 昭

24時間営業

五島市上津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551 FAX (0959) 74-5552

五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101 FAX (0959) 64-3102

注文家具の店 家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台

佳織木工所 kaori-mokkousho.com

《家庭祭壇ギャラリーOPEN パンフレットもご紹介します。》

〒857-0032 佐世保市宮田町7-7 ☎0956 (23) 1867 代表 ラウラ・ビクーニア 濱口 佳織

ご先祖に心より感謝を・・・

材石 治明

長崎本店 長崎市城栄町 13-1 電話 (095) 846-3598

大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は

メモリアル・典礼会館・中央斎場

長崎・諫早・大村・佐世保

株式会社メモリアル (メモリアル新聞) 事務局 ベトロ 田川慶司

☎0120-44-6666